

特集Ⅲ

看護を どう評価するか

医療はいま、少子高齢化など社会が抱える問題の前で、厳しい環境を強いられている。増え続ける医療費に対しては効率化が求められ、一方で安全への要求の声は強まるばかりである。そのような状況のもと、国民が安心・安全な暮らしを継続するために、その役割から看護への期待は今後いっそう高まっていくことが予想される。

そこで、患者・組織・社会のニーズに応えるために、いかに働き、効果的で効率的なサービスを提供しているか——それがサービスの受け手に見え、納得性の高い評価を示すことの重要性が高まっている。

日本看護評価学会は、看護における評価ニーズと評価手法の体系を整える研究、評価技術を洗練する研究、新しい評価手法を開発する研究を推進するとともに、その方法論上の議論を深める場として設立された。

本特集は、それに先立ち行なわれたシンポジウムの内容を大幅に加筆修正し、紹介するものである。

